

平成29年度 農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 伊佐農林高等学校

1 目的

農林業の地域的課題の調査研究である「課題研究」の各専攻テーマを設け、その課題解決に取り組み、地域に貢献できる産業人を育てることを学科の目標にしている。そのため地域の農業や林業の現状や、高校卒業後の進路目標を明確にするため、農林業に関する体験や研修を行う。

2 実施状況

(1) 先進地研修（1年，2年）

農林技術科2年生を対象に、本校の食品製造に最も関連の深い歴史ある味噌醤油工場と県立農業大学校を訪問した。工場においては、製造を開始したいきさつや年間を通して、高品質の味噌作りのこだわり、その工程などを伺った。身近な加工品でもあり、食に対する安心・安全の大切さを知るとともにこれからの学習の参考になった。また、毎年、農業大学校への進学者もおり、学校の施設や寮などを見学し、進学また就農への意識付けになっている。

農林技術科1年生は、「農業と環境」の授業に関する再生可能エネルギーの学習内容を深めるため、木質バイオ発電の施設を見学した。森林及び地球環境について考えるとともに、今後の専門学習に対する関心や意欲を深める機会となった。



新原醤油味噌工場見学



霧島木質発電株式会社

(2) 農林業後継者励ましの会

今年も2月に、市長を会長とする後継者育成推進協議会の会員を招き、農林業関係に就職する生徒また農業大学校に進学する生徒を激励する会を実施した。会のあと、懇談会を行い、会員16名とともに会食し、一人ひとりの生徒たちに励ましの声をかけていただいた。今年度は、農業大学校への進学が5人、農林業関係の就職6人、合計11人（学級全体の50%）がこの会に参加した。



農林業後継者励ましの会

3 今後の課題、取組

農林技術科では、農業と林業に関する専門的学習を深めるため、2年生から大家畜・中小家畜・園芸・食品加工・林業の5つの専攻に分かれて学習を行っている。後継者を育成するために、農林業関係への見識を深めて、今後も課題研究においては、地域への学校の取組を一般に広く知ってもらおう発表会を継続していく。さらに地域での課題に対して、関係機関と連携を深めて、課題に対する情報収集に努めて、地域リーダーとなり得る産業人を育成する。